

ふるさとの今昔 ～桜丘およびその周辺地域～

目次

はじめに	01
I. 桜丘および周辺地域のあゆみ	03
【コラム】『戦争の頃のこと』 辻 富士子 氏	06
【コラム】 学童疎開～戦時下の子供達～	07
【コラム】 ～地名の由来 世田谷/桜丘/船橋/経堂～	09
II. 交通機関の整備・発展	12
【コラム】『小田急とともに歩んだ人生』 生方 良雄 氏	14
【コラム】『桜丘のむかし語り』 大貫 菊次郎・金太郎 氏	16
【コラム】『ふるさと・あの頃の思い出』 山田 治翁 氏	17
III. 桜丘の歴史スポット	18
【コラム】『ふるさと・あの頃の思い出』 中野 力 氏	22
【コラム】『ふるさと・あの頃の思い出』 棚網 毅彦 氏	26
【インタビュー】『稲荷森稲荷神社とかつての桜丘』 直井 哲二 氏	27
【コラム】『ふるさと・あの頃の思い出』 直井 久男 氏	32
【コラム】『ふるさと・あの頃の思い出』 田中 芳徳 氏	33
IV. 桜丘の風習・方言	37
【コラム】『鶯草伝説』	38
V. 経堂・千歳船橋の生い立ちとスポット	39
【インタビュー】『長島家と長島大榎公園』 長島 範朋 氏	41
【インタビュー】『父、森繁久弥と船橋』 森繁 建 氏	45
VI. 地図に見る歴史の変遷	47
VII. 商店街の発展：千歳船橋参商会商店街・桜丘3丁目商店会	56
【マップ】『私たちの街の帰らざる風景』	57
VIII. 地域の団体：町会（桜丘町会・桜丘1丁目町会・桜丘南町会）・世田谷消防団第16分団・ 横根睦会・昭和会・桜丘区民センター・NPO世田谷桜丘まちづくり	59
IX. 桜丘の野菜づくり	63
【コラム】『ふるさと・あの頃の思い出』 木村 悦郎氏 / 『ポロ市の歴史』	66
【コラム】『ふるさと・あの頃の思い出』 蛭間 日出夫氏	67
X. 桜丘周辺の地形と気候	68
XI. 座談会 「桜丘に育ったわれらの青春時代」	70
XII. 写真で見る“ふるさとの今昔”	77
【資料】桜丘の統計（人の動き）	81
【関連年表】世田谷史・桜丘の変遷	83
編集後記	85
参考文献	86



ふるさとの今昔
～桜丘およびその周辺地域～
改訂版

世田谷【せたがや】★

歴史上では承平年間(931～937年)の「和名抄」という書物に、多摩10郷のうち「勢多郷」という名があり、また、永和2年(1376年)には「世田谷郷」の記録が残っています。これがもとになり瀬田茅、瀬田萱、瀬田谷になったとも考えられ、土地の人々は明治の中頃まで世田谷を「せたかい」と呼んでいたということです。

由来としては、浅瀬の開拓の意味で「せたかい」、台地の間の狭い小谷の意味で「せとがや(瀬戸ヶ谷)」あるいは、世田谷区内の瀬田に由来し、瀬田の谷地の意味で「世田ヶ谷戸」の略とする説があります。

桜丘【さくらがおか】★

昭和41年(1966)に世田谷5丁目から改名した際につけられたもので、桜木という世田谷村の小字(こあざ)に由来します。この桜木は、世田谷城内にあった「御所桜」の木にちなんでつけられました(現在は吉良家の墓所、勝光院の裏手にある桜木中学校にその名をとどめるだけです)。この桜木の地に最初にできた小学校が桜小学校と命名されました。その後大正11年(1922)に現在の桜丘の地に桜小学校・横根分教場が開設され、昭和22年(1947)に【桜丘小学校】と改名されました。そして極めて珍しいケースですが、この小学校の名前がそのまま新町名の由来となったと言われています。

船橋【ふなばし】★

かつて駅の北側に当たるところは水田地帯で湧水の池がありました。長い間に徐々に湿地帯になっていきました。住民が池を渡る為に数カ所に船橋を架けたことから名がついたといわれます。なお船橋とは船や材木など水に浮くものを水面に浮かべて繋ぎ、その上に板を渡した浮橋のこと。または兩岸から綱を張ってその綱を伝わって動かす筏のことです。また、駅名としての千歳船橋は(諸説ありますが有力説として)小田急線開設当時、所在地が千歳村大字船橋だったことから、千葉県船橋市と区別する為【千歳船橋】と命名されたそうです。ただ経堂と船橋と横根の境界付近に位置しており、この3村で綱引きがあったようですが、最終的には船橋村の住民が土地や労働力を提供した為、船橋の名前をつけることで決着したようです。

経堂【きょうどう】★

かつてこの土地が開かれたときに建てられたお堂が京都風の造りで、京堂と呼ばれていたのが【経堂】に変わり、それが地名になったという説と、福昌寺を開いた松原土佐守が多くの蔵書を持ち、その書庫を【経堂】と呼ぶようになったという説もあります。更に、経本をたくさん入れた石室の上にお堂を建てて信仰の対象にしたので【経堂】と呼ばれるようになったとの説もあります。

★桜丘のかつての地名・・・横根・宇山

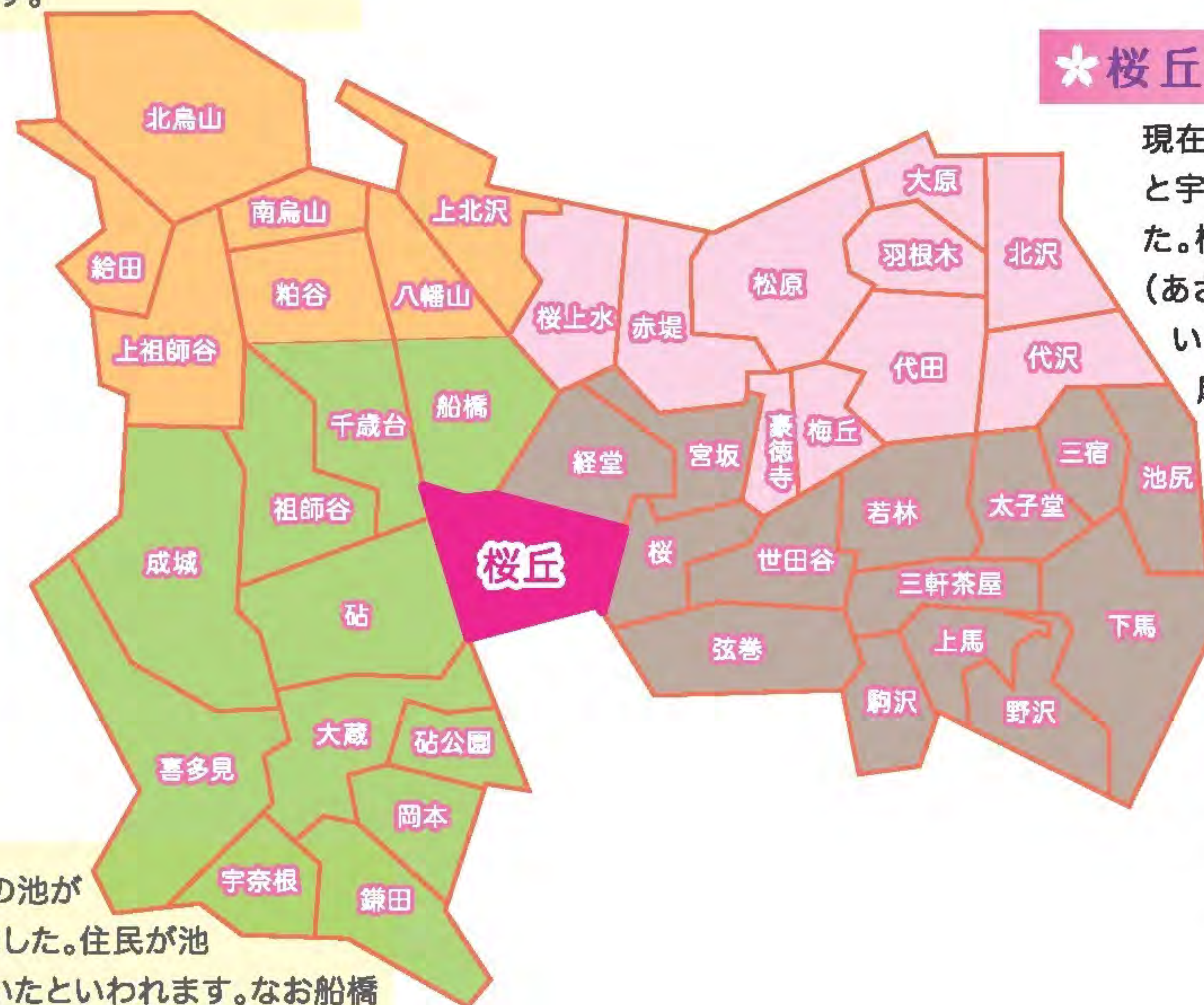
現在の桜丘は江戸時代から横根(現桜丘1.2.3.5丁目)と宇山(現桜丘4丁目)の二つの地名で呼ばれていました。横根は(横根・東横根・中横根・西横根)の4つの字(あざ)で構成され、古くはこれらを総称して横根山谷といっていました。宇山はかつて宇奈根山谷と呼ばれ、多摩川の宇奈根村地域から移ってきた人たちが開墾した土地といわれています。

横根【よこね】

江戸時代には甲州に通じる街道も整えられ、江戸に近づくとも通りも多くなり、旅人はこの街道から抜けて【横根道】を通りました。この道は烏山から稲荷森稲荷神社を通り世田谷城の下に通じていて、この道を【横根道】といいました。【横根道】は農民や商人などが通った道だとされています。地名の起こりはこの【横根道】の名前から由来してといわれています。

宇山【うざん】

江戸時代の始め(1650年頃)、多摩川の氾濫で農作に困った宇奈根村の農家が、新たな農地を求めて今の桜丘4丁目に移住し、その地を開墾して村を起しました。当初は宇奈根山谷(うなねざんや)と呼ばれていましたが、縮めて【宇山】と呼ばれるようになりました。



【父、森繁久弥と船橋】

★昭和21年、両親と祖母、子供3名の6人で満州から引揚げてきました。母方の親戚が狛江にあって、その離れを借りて住んだのですが、そこが狭いので、船橋に空き家があってそこに移ってはそのことで水道機工の反対側あたりに転居しました。それが世田谷との縁のはじめです。その当時の千歳通りは品川用水の名残で土手状になっていました。そこで10年近く過ごしました。

★今の場所に移転したのは昭和28・9年頃です。当時は千歳船橋と経堂の端っこで周りは何にもない雑木林。連合撮影所が隣に出来た程度でしたが、新しい家はなかなか瀟洒な造りでした。土地は当初の540坪に買い増して800坪以上ありました。車寄せの部分だけでもかなりの広さがあり、そこでお祭りになるとお神輿をわっしょい、わっしょいもんだり、正月には消防が出初め式に来てはしご乗りをやったりしたものです。父もお祭りになると箱に入った一升瓶10本、警察の道場開きなどにも金一封、昔のよき時代の地域行事には父も喜んで寄進していました。



▲創建当時の森繁邸。奥の白い屋根が連合映画撮影所

★ちょうど船橋に越すと同じ頃に連合映画ができました。連合映画は貸スタジオでした。その後に来た東京映画は制作会社で、社長シリーズや駅前シリーズはほとんど東京映画で撮影されました。ウチとの境界線は一応金網を張ってあるもののいい加減で、父も仕事に行くときには表道路からでなく、雑木林の中の獣道のようなところを抜けて撮影に通っていました。昼になると俳優さんや裏方さんを連れて帰ってきて、母はしょっちゅう、ご飯を作って大変でした。それが当たり前のことになって、まるで庭に撮影所があるような感じでした。撮影所が隣だったので移動もないし、遅刻することはありません。

★昭和30年に夫婦善哉があたって、この年は日活で撮った作品が多く、警察日記など7~8本も撮りました。それから東京映画に戻って、社長シリーズ、駅前シリーズへと続きます。自分がやりたいものをするだけでなく皆さんが見たいものをする。喜劇は必ずしも本意ではなくても、見てくれる人が期待している限りは喜んでやるとの気持ちを強く持っていました。

★仕事から帰って来ると、ウチの中では俳優を捨てて、父であり主(あるじ)に戻って、お酒を飲んで歌って面白く楽しく過ごします。“いいことも悪いことも過去にこだわることはない”“済んだことは忘れろ”が主義で裏表のない生活を送っていました。

★自宅は船橋から動く気持ちは全くありませんでした。船橋で自分は大きくなったということを常に思っていましたからまちに対する愛着は強かったです。長寿庵のおそばをとったり寿司清(廃業)にはパーティーの出店を出してもらったりしました。パトロールのおまわりさんやお祭りなど、地域とのつながりも大事にしました。



話し手: 森繁 建(たつ)氏 (昭和17年12月生)

★ちょうど船橋に越すと同じ頃に連合映画ができました。連合映画は貸スタジオでした。その後に来た東京映画は制作会社で、社長シリーズや駅前シリーズはほとんど東京映画で撮影されました。ウチとの境界線は一応金網を張ってあるもののいい加減で、父も仕事に行くときには表道路からでなく、雑木林の中の獣道のようなところを抜けて撮影に通っていました。昼になると俳優さんや裏方さんを連れて帰ってきて、母はしょっちゅう、ご飯を作って大変でした。それが当たり前のことになって、まるで庭に撮影所があるような感じでした。撮影所が隣だったので移動もないし、遅刻することはありません。

★父の死後、森繁久弥にちなんだ船橋のシンボルがいくつか出来ました。「森繁通り」は父が亡くなった翌年の2010年5月に区の土木課から、駅の前500mを「森繁通り」と正式名称にしたいとの申し入れあり快諾しました。日本広しといえども正式名称として個人の名前が採用されたことは恐らくないでしょうから。

★千歳船橋駅前にある「テヴィエ像」(*)は父が経営した広島ゴルフ場にあったものを移設して駅前に持ってきたものです。あの場所は道路の扱いなので個人名では許可されませんが、「テヴィエ像」ということで通ったのは幸運でした。



▲森繁邸前(現 森繁通り)



▲千歳船橋駅前のテヴィエ像

★父の没10年を記念して町が千歳船橋駅の着メロ「知床旅情」と小田急に打診したところ、担当の若い課長さんは森繁久弥をご存じなく「何で船橋で『知床』の歌を…」でしたが、知人の伝手で小田急の会長と結びつきとんとん拍子で実現しました。

★長い間芸能界の第一線にいて、しかも90過ぎ迄生き最後まで孫やひ孫に囲まれ、穏やかな一生を送る事が出来父は幸せだったと思います。父が亡くなった後地域の方々に父の話をさせて頂く機会がありましたが、私にとっては父への恩返し気持ち、父からすれば息子を使って皆さんへの恩返し。皆さん本当に楽しそうに聞いて下さってありがたく思っています。

★父は大変好奇心旺盛で、どんな人でも自分の知らない事の話はよく聞きますし、実に多くの本を読んでいました。又お酒も大好きで晩酌

はブランデーのお湯割りを欠かさず、良い気持ちで歌を歌うのが楽しみでした。時々散歩のまま足を延ばして「かんぴょう」に行きました。マスターの作る料理を美味しく食べて、帰る時には大きな声で「ごちそうさま!」と。

★ほとんど風邪もひかず頑強でした。一つは“くよくよする”とか“ああだったこうだった”を言わずに前を見ていたからだだと思います。私も今は健康ですが、80歳を期して体力づくりに励み、新たにチャレンジしていきたいと思っています。

インタビュー2022年9月6日

(*)テヴィエ 森繁久弥が主演したミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」の主人公の名前、森繁久弥が900回出演したあたり役でした。胸像は2009年11月に除幕式が行われました。

森繁久弥 プロフィール

1913(大正2)年大阪・枚方市生れ。早稲田大学在学中より演劇活動に入り、出演映画は300本を超える。900回の公演を重ねた舞台「屋根の上のヴァイオリン弾き」などで芸術選奨文部大臣賞を受賞した他、数多くの演劇賞を受賞する。1975年紫綬褒章、1991年文化勲章を受章、没後国民栄誉賞を追贈。

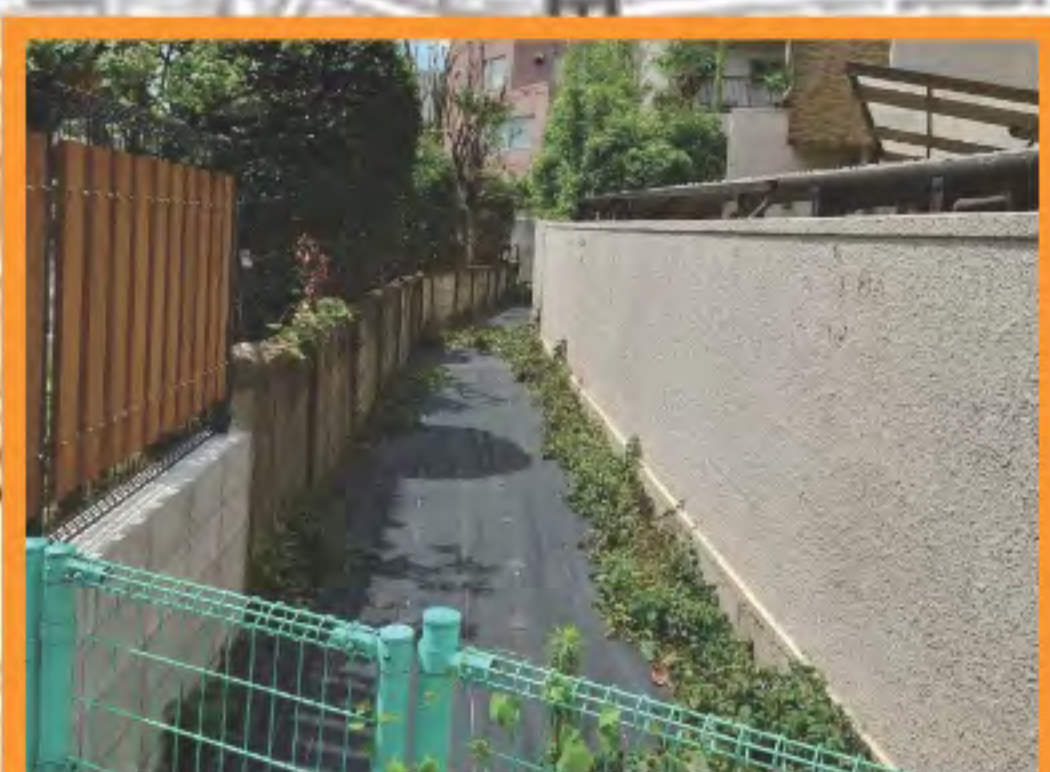


▲森繁久弥氏

3. 桜丘周辺地区の旧河川・用水・沼など



N. 谷戸川上流端 (成城警察付近)



O. 東京都水道局の脇 (桜丘5-50)の谷戸川



A. 品川用水(現 千歳通り)



L. 桜丘4-6付近



H. 谷沢川湧水池跡碑



M. 桜丘宇山緑地 (大雨時の遊水地)



I. 谷沢川開渠区間 (桜丘3-28付近)



J. 品川用水余水吐の流れ (奥は東京農業大学)



F. 千歳支流の上流端



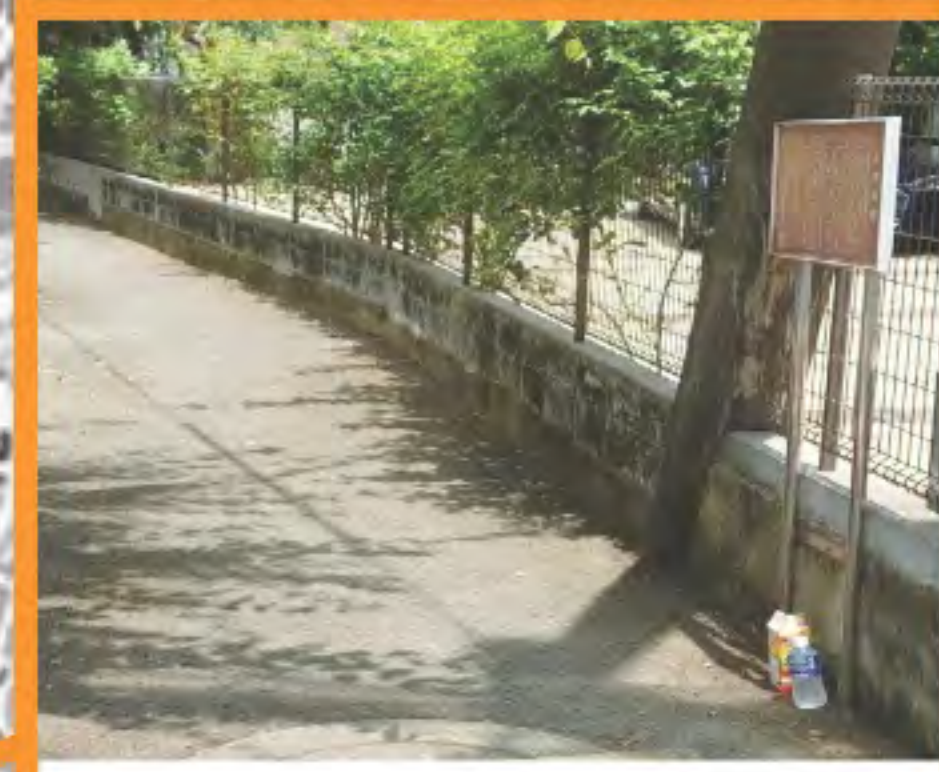
G. 季節の野草に出会う小径



D. 千歳船橋駅前の柳



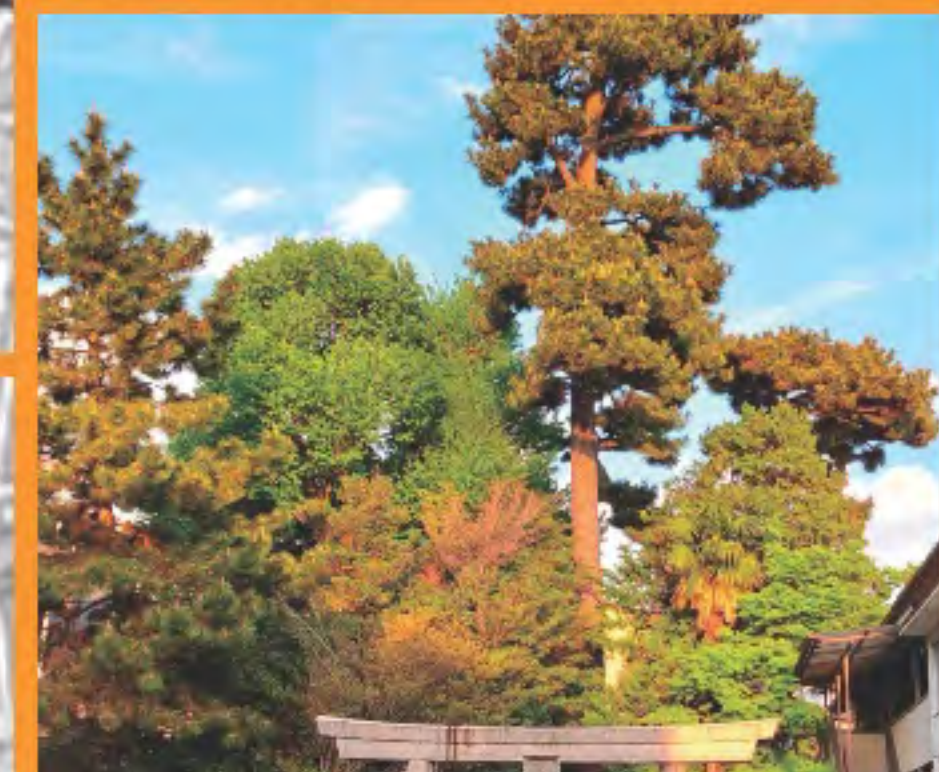
B. 鳥山川 (現在は緑道として整備されている)



C. 菅刈橋支流



E. 長島公園支流 (源流の湧水池)



K. 太陽稻荷神社 (湧水があった)

『私たちの街の帰らざる風景』

—1980年代(昭和末期)の駅南口側商店街—

当時(昭和末期)の千歳船橋の駅はまだ路面駅(高架化=平成13年(2001)下り線の高架化から順次進み平成16年(2004)9月に完成)で、駅前には大きな柳の木と交番そして長期に渡り南北の交流の阻害要因の一つとなった“踏み切り”がありました。都心に通う、桜丘方面に住む多くのサラリーマンや学生は、この踏切を毎朝利用していました。

警報器が鳴り遮断機が下り、目の前を新宿行き各駅停車の小田急が通過します。そして2番線ホームに停車しているのが見えています。遮断器が上がるや否や脱兎の如くかけだして…。

駅に帰ってくると、柳の木が優しく迎えてくれました。“ホッ”とする一瞬です。家路に向かい“城山通り”の交差点まで来ると、目の前には暖かい商店街の灯り…地場の商店がいっぱい残る素敵な風景が広がるエリアでした。



▲高架になる前の駅北口



▲駅前のシンボル柳の木

千歳船橋駅



チトフナで誕生し全国に羽ばたいたお店

1. 持ち帰り弁当チェーン『オリジン弁当』
昭和41年(1966)年10月創業者の安澤英雄氏が中華料理店『東秀』を千歳船橋で開店。昭和57年(1982)に持ち帰り弁当事業を立ち上げました(「マミー弁当」など)。平成6年(1994)4月新業態として量り売り惣菜と持ち帰り弁当併売型店舗『オリジン弁当』を開店して全国展開しています。(「ウイキペディア」より)

チトフナで誕生し全国に羽ばたいたお店

2. サンドラッグ
昭和32年(1957)多田幸正氏が世田谷区桜丘にて創業。直営店舗のエリアを順次拡大しつつ地方のドラッグストアの運営企業とフランチャイズ契約を進めることで日本全国に店舗網を拡大しています。(「ウイキペディア」より)

tips【スーパー島田】

日本で初めてスーパーにエレベーターを導入したと言われる“島田”はエスカレーターで2階に上がり買い物をして、エレベーターで1階に下りてレジで精算するというユニークなシステムの高級スーパーでした。化粧品、雑貨などを扱う別館アネックスと共に商店街のランドマークとして長く愛されていましたが、平成13年(2001)年廃業。本店は、その年11月に“紀ノ国屋千歳船橋店”になり再出発、更に平成17年(2005)年3月に“オオゼキ千歳船橋店”になり現在に至っています。

tips【商店街の二つのスタンプ】

当時“参商会加盟のお店”で買い物するとサンスタンプ、“スーパー島田”で買い物するとグリーンスタンプをもらえ、そして商品についているベルマークも合わせてそれぞれを台紙に貼り付けるなど整理するのがアフターショッピングの楽しみでした。目標の商品と交換できる冊数に近づくと本当にワクワクしました。

* = 現在も営業している店舗